

道の駅「みはら神明の里」 来場100万人を達成



▲セレモニーで喜びを語る100万人目の伊藤さん親子

10月26日、道の駅「みはら神明の里」の来場者が通算100万人となり、記念のセレモニーが行われました。平成24年3月のオープンから1年7カ月、新鮮野菜のそろう産直市や市内の食材を使った料理を提供するレストラン、瀬戸内海を眺めることができる展望デッキなど、市内外の人に親しまれています。

100万人目は、土産物を買うために訪れたという、市内に住む伊藤久俊さん親子。セレモニーでは、天満市長が記念品を贈呈して祝いました。先月9・10日には、100万人達成を

記念した関連イベントを開催。ステージイベントや無農薬のサツマイモなど産直野菜のテント市、佐木島産みかんの詰め放題などが行われ、多くの人出でにぎわいました。

☎文化観光課
☎0848・67・6015

雪舟サミットに初参加 佛通寺とのゆかりを 本格調査へ

室町時代の画僧、雪舟にゆかりのある中国地方の6市が一堂に会した「雪舟サミット」が10月27日、生誕の地とされる岡山県総社市で開かれ、佛通寺との関係を調査中の三原市も初参加しました。あいさつで天満市長は、「しっかりと調査し、雪舟との関わりを明らかに



▲雪舟に関係する6市で連携を確認しました

したい」と意気込みを語りました。

サミットには、三原市と総社市のほか、岡山県井原市、山口県の山口市と防府市、島根県益田市の6市が参加。6市は、雪舟でつながった縁を災害対策に生かそうと、大規模災害時の支援で相互に連携することを確認しました。

市は今年度、雪舟にゆかりがあると伝わる佛通寺について、全国に発信できる文化・観光資源にするため、歴史的なつながりなどを解明する調査を始めました。佛通寺には、雪舟が滞在したと伝えられる「篩月庵」があったほか、雪舟の原画を模写したとされる絵画もあり、以前から雪舟との関係が指摘されてきました。

9月には教育委員会が、雪舟に関係した文化財などを調査する委員会を発足。学界や行政機関の専門家が分野ごとに調査を担当し、平成29年度までに報告書をまとめる計画です。年内には絵画や古文書などについて、現地調査を始めます。

☎生涯学習課
☎0848・64・2137

大規模災害を想定し 消防訓練を実施

市消防本部は先月14日、ペアシティ三原西館で大地震による災害を想定し



▲負傷者への救命訓練などで大規模災害に備えました

た消防訓練を実施しました。参加者が館内の利用者をスムーズに避難させる手順を確認したほか、消防隊員による消火活動、負傷者の救助・救出活動が行われたほか、県の防災ヘリコプターも出動するなど、大規模な訓練で災害に備えました。

訓練は、安芸灘沖で発生した大きな地震により、館内で火災が発生し、利用者の多くが負傷したとの想定で実施。消防署員、館内ホテルの従業員や職員で組織した自衛消防隊など、約150人が参加しました。救急隊員が救出された負傷者の重症度を判定し、適切な救命処置を施す訓練を実施するなど、本格的な内容となりました。

☎消防本部消防課
☎0848・64・5928